

2020(令和2)年2月実施

日常生活に関するアンケート調査

報告書

(東吉野村)

2020年3月

目次

調査の概要	1
結果の概要	2
1. 回答者の属性	5
1.1 年齢と性別	5
1.2 居住歴	7
1.3 職業	9
2. 家族と子ども	10
2.1 回答者の家族構成	10
2.2 子どもの有無と居住地	11
2.3 困ったときに帰ってきてくれる子どもの有無と居住地	12
3. 生活圏	13
3.1 出かける頻度・利用する交通手段・所要時間	13
3.2 食品・日用品の買い物先と最寄りの病院	16
4. 現在の生活と将来の生活	18
4.1 現在困っていることと将来不安なこと	18
4.2 頼りになる人	19
4.3 将来について相談したか	20
5. 将来の居住に関する意向	22
5.1 将来も住み続けたいか	22
5.2 将来も住み続けたい理由	24
5.3 別の地域に移りたい理由	25
5.4 別の地域に移るにあたって障害となること	26

調査票

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、東吉野村住民の態度と行動および日常生活をめぐる地域社会構造を把握し、必要な支援を検討するための基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の実施概要

(1) 調査対象

2020（令和元）年2月19日現在、東吉野村に在住する満15歳以上の男女。

(2) 抽出方法・調査方法

全戸調査。配達地域指定郵便を利用し、東吉野村の全戸に調査票および返信用封筒を3通ずつ郵送し、奈良女子大学への返信により回収した。

(3) 調査期間

令和2年2月19日～令和2年3月3日

(4) 回収結果

回収数 347 票、有効回答票数 343 票、有効回収率 24.3%（令和元年10月1日現在人口動態推計人口 1410 名に対して）

(5) 調査項目

回答者の属性（年齢、性別、居住歴、職業）、家族構成と子どもの有無及び居住地、生活圏（食品・日用品の購入先と病院へ出かける頻度、移動手段、所要時間）、日常生活と将来の生活に関する態度（現在困っていることと将来不安なこと、将来の居住に関する意向とその理由）

(6) 調査主体

国立大学法人奈良女子大学、奈良県南部東部振興課

(7) 参考資料

調査票の作成にあたっては、平成20年国土交通省「人口減少・高齢化の進んだ集落等を対象とした『日常生活に関するアンケート調査』を参考とした。

(<http://www.mlit.go.jp/common/000029229.pdf>)

結果の概要

1. 回答者の属性

- 本調査の回答者の4分の3以上が65歳以上の高齢者である。また15～54歳の回答率が低く、70歳から84歳の回答率が高くなっているため、回答全体は高齢者にやや偏っている。
- 回答者の居住歴を「地元」（地元で生育）、「帰郷」（地元で生まれ地域外へ転出後帰郷）、「移住」（地域外で生まれ転入）の3つに区分すると、男では「地元」（48%）が最も多く、女では「移住」（53%）が最も多い。
- 回答者の居住歴を年齢別にみると、男では70～74歳、女では60～64歳および80～84歳で「移住」が多い。「移住」の大半は奈良・大阪を中心とした関西の出身者である。

2. 家族構成と子ども

- 回答者のうち「一人暮らし」は2割、65歳以上のみの世帯は約6割である。
- 回答者の半数は「子どもがすべて独立し、遠方に住んでいる」。
- 65歳以上の回答者に限ると、その約9割は「帰ってきてくれる子どもがいる」と回答している。帰ってきてくれる子どもの大半は桜井市や橿原市をはじめ奈良県内に居住している。

3. 生活圏

- 回答者の8割は車を利用して食品・日用品店、病院、仕事に行っている。
- 回答者の5割は食品・日用品店に週に数回以上、病院に月数回以上、30分以上かけて通っている。このことは後述のように将来車を利用できなくなる不安と強く結びついている。
- 回答者の7割近くは宇陀市で買い物をしており、6割弱は宇陀市の病院に、2割強は桜井市の病院に通院している。
- オフィスキャンプに出かける人は回答者の数%である。

4. 現在の生活と将来の生活

- 「現在困っていること」と「将来不安なこと」のいずれにおいても「近くで食料や日用品を買えない」「近くに病院がない」「救急医療機関が遠い」の3項目が最も多い。

- 将来、自身や家族の病気・高齢により日常生活が不自由になったとき、同居の家族以外に頼れる人として、回答者の5割は「同居していない家族・親戚」を頼りにしているが、2割は「ホームヘルパー・訪問介護員」「隣近所や同じ集落の人」を挙げている。
- 家財産の管理や活用について、家族で話したことがあるのは回答者の半数程度である。

5. 将来の居住に関する意向

- 将来の居住意向については、回答者の約4分の3が現在の居住地に「将来も住み続けたい」と回答し、約4分の1が「将来は別の地域に移りたい」と回答している。
- 居住歴別男女別にみると、「将来は別の地域に移りたい」という回答は「帰郷女性」と「移住男性」に多い。
- 「将来も住み続けたい」理由は、「現在住んでいる家や地域に愛着があるから」が最も多く、現在の生活や環境への愛着を理由に挙げている。
- 「将来は別の地域に移りたい」主な理由は、「車を運転できる人がいなくなる」「近くで食料や日用品を買えない」「近くに病院がない」である。
- 別の地域に移る際の障害としては、現在の土地家屋の処分や管理が挙げられている。

本報告書の見方

- 本文や図表において、Nは分析対象とする有効回答者数を示す。
- 図表において、「度数」は各設問における回答数である。「%」（回答率）は各設問の有効回答者数（N）を100%とし、小数点以下第1位を四捨五入して表示している。そのため、内訳の合計が100%にならないことがある。
- 「複数回答」は、一人の回答者が複数の選択肢を選択できる設問である。この場合、「%」は有効回答者数に対する回答率を表す。

1. 回答者の属性

1.1 年齢と性別

65歳以上の回答者が全体の4分の3以上を占める。調査時点の近時の母集団資料である令和元年10月1日現在の年齢別人口（人口動態推計）と比較すると、15～54歳の回答率が低く、70歳から84歳の回答率が高くなっている。

問2 あなたの年齢、性別をお答え下さい。

満 歳 (性別) 1. 男性 2. 女性

表 1.1.1 回答者の年齢と性別

	男	女	計	男	女	計
15～54歳	13	23	36	8%	12%	10%
55～59歳	11	7	18	7%	4%	5%
60～64歳	12	11	23	8%	6%	7%
65～69歳	18	28	46	12%	15%	13%
70～74歳	30	35	65	19%	19%	19%
75～79歳	25	36	61	16%	19%	18%
80～84歳	24	30	54	16%	16%	16%
85歳～	21	19	40	14%	10%	12%
計	154	189	343	100%	100%	100%

表 1.1.2 15歳以上男女別人口（人口動態推計・令和元年10月1日現在）（参考）

	男	女	計	男	女	計
15～54歳	182	163	345	28%	22%	25%
55～59歳	40	42	82	6%	6%	6%
60～64歳	60	65	125	9%	9%	9%
65～69歳	92	90	182	14%	12%	13%
70～74歳	86	83	169	13%	11%	12%
75～79歳	67	96	163	10%	13%	12%
80～84歳	65	100	165	10%	13%	12%
85歳～	60	111	171	9%	15%	12%
計	652	750	1402	100%	100%	100%
年齢不詳	2	6	8			
総計	654	756	1410			

図 1.1.2 回答者の年齢と性別

性別年齢別回答者数 (N=343)

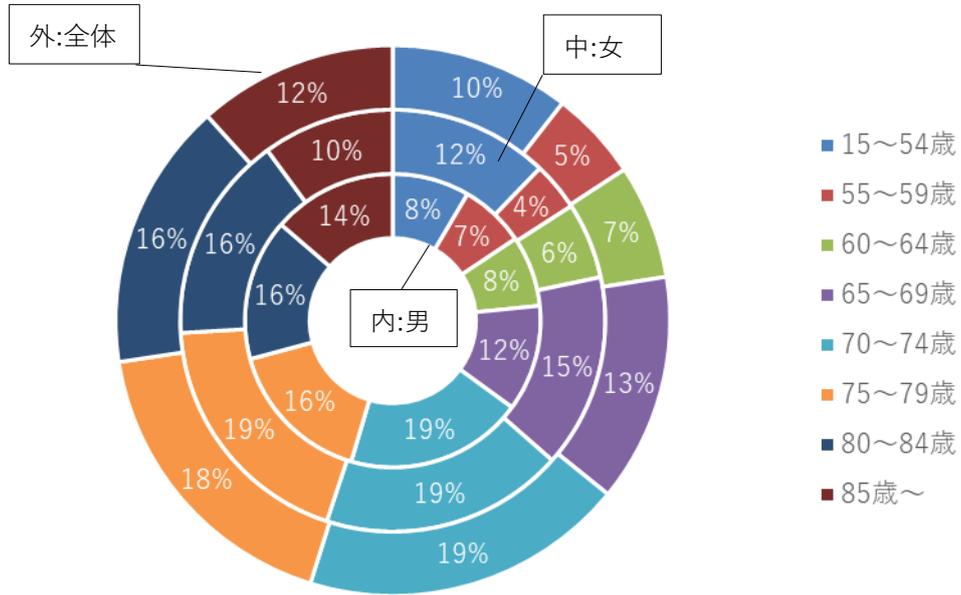
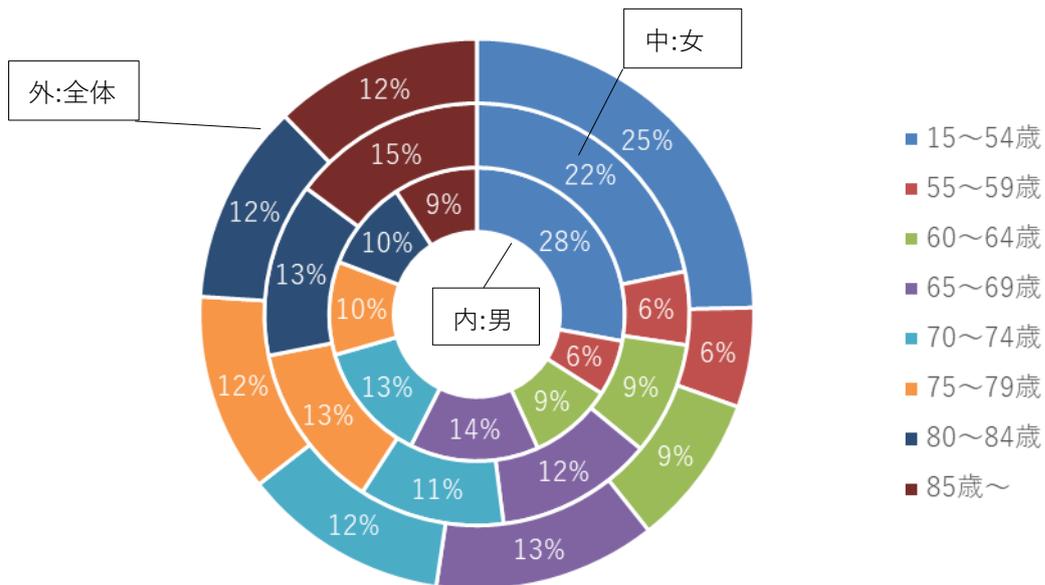


図 1.1.2 15歳以上男女別人口 (人口動態推計・令和元年10月1日現在) (参考)

性別年齢別年齢構成 (人口動態推計・令和元年10月1日現在)



1.2 居住歴

回答者の居住歴を「地元」「帰郷」「移住」の3つに区分して尋ねた。

問3 あなたの居住歴について、あてはまるものに1つ○を付けてください。

1. 現住地の市町村で生まれてから、この市町村を離れて住んだことはない【地元】
2. 現住地の市町村で生まれてから、この市町村を離れて住んだことがある【帰郷】
3. 現住地の市町村外から移住してきた【移住】

このうち「地元」は地元で生まれ育ち、転出することなく居住している者であり、「帰郷」は地元で生まれ育ったが一度地域外へ転出した後に再び地元に戻ってきた者である。「移住」は地域外で生まれ転入してきた者を指す。

回答者全体におけるこれらの構成は「地元」38%、「帰郷」23%、「移住」39%となっており、「地元」と「移住」がほぼ同じ割合である(図1.2.1)。しかしこれを男女別にみると、男では「地元」(48%)が最も多く、女では「移住」(53%)が最も多いことがわかる(表1.2)。

さらに男女別年齢別に細かくみると、男では70~74歳、女では60~64歳および80~84歳で「移住」が多い(図1.2.2、図1.2.3)。「移住」の出身地は掲載していないが、「移住」の大半は奈良・大阪を中心とした関西の出身者である。ただし70~84歳の女性には中国・四国や九州の山村出身者が一定数みられる。大都市圏への集団就職と結婚を通じて移住してきたものと考えられる。

図1.2.1 居住歴の構成

居住歴の構成 (N=331)

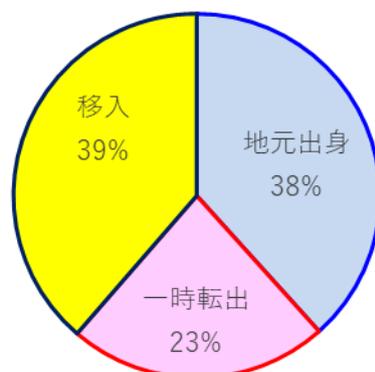


表 1.2 居住歴

	男	女	計	男	女	計
地元	73	54	127	48%	30%	38%
帰郷	46	30	76	30%	17%	23%
移住	33	95	128	22%	53%	39%
計	152	179	331	46%	54%	100%

図 1.2.2 男女別年齢別居住歴構成（男）

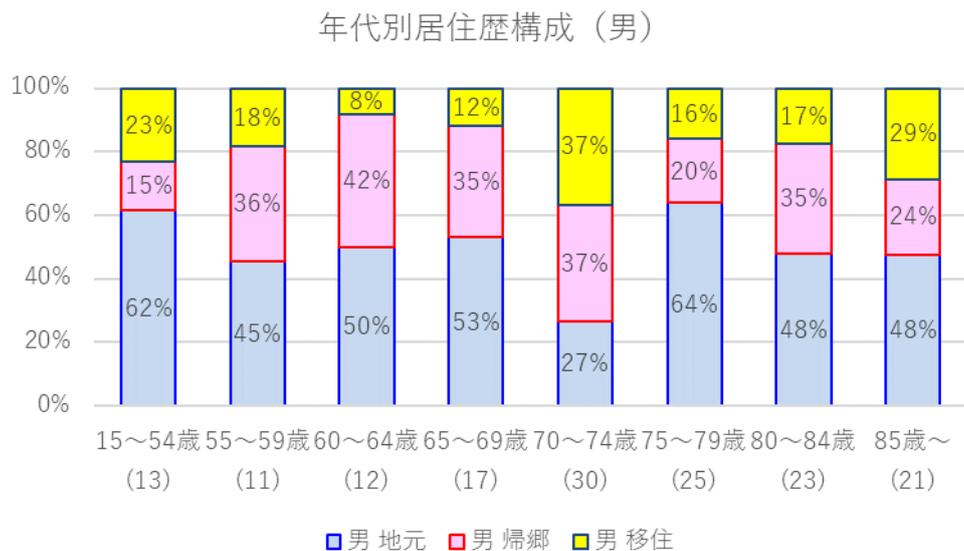
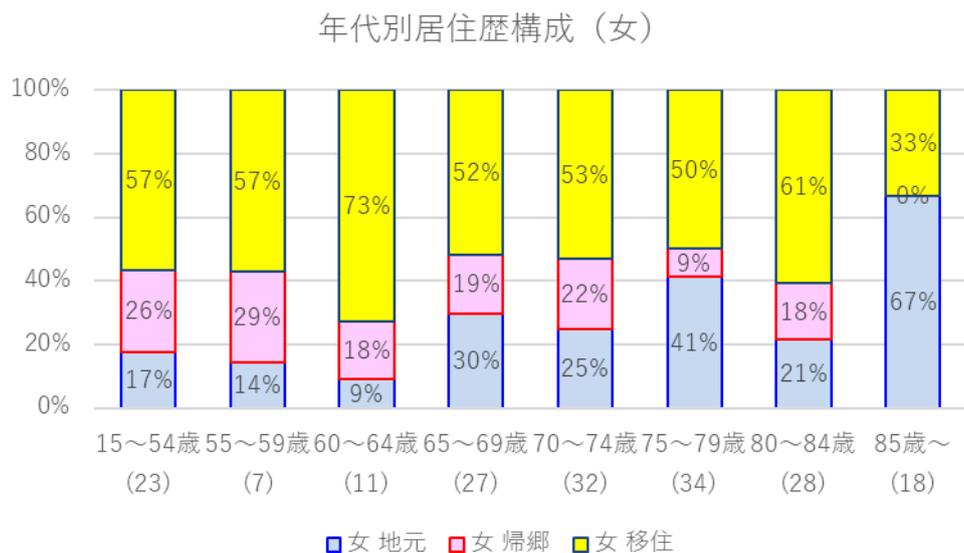


図 1.2.3 男女別年齢別居住歴構成（女）



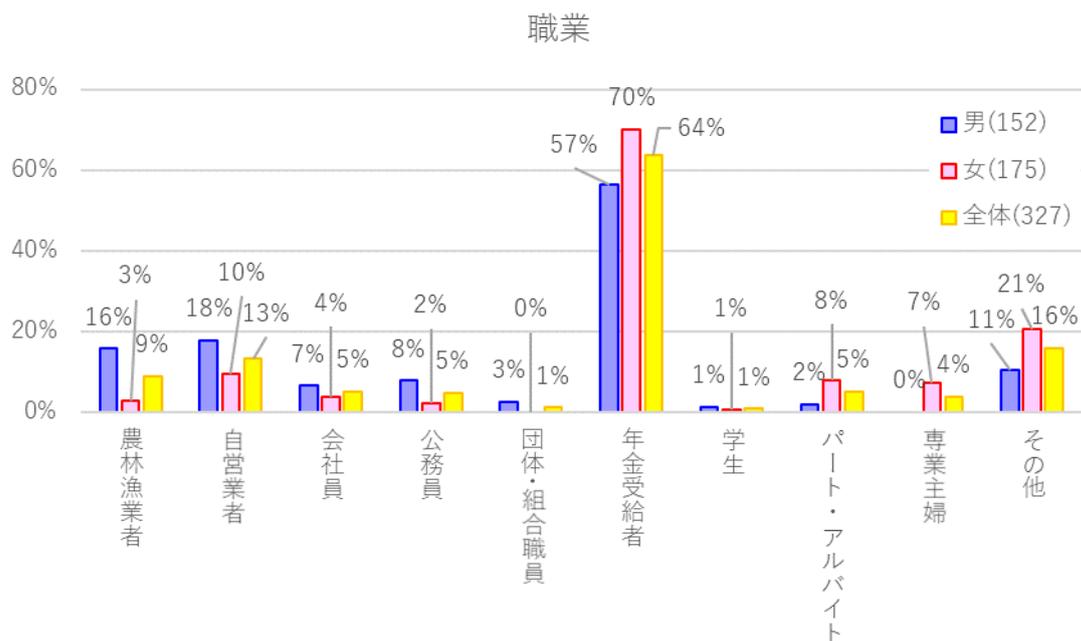
1.3 職業

回答者の職業を男女別に見たものが図 1.3 である。複数回答であるが、回答者の年齢を反映して過半数は「年金受給者」である。なお、「その他」には、「パート・アルバイト」「専業主婦」に該当する回答が一定数あったためグラフに示している。

問 4 あなたの職業はどれですか。複数の職業をもつ方は、あてはまるもの全てに○を付けてください。

- | | | |
|----------|----------------------|-----------|
| 1. 農林漁業者 | 2. 自営業者（農林漁業者以外） | 3. 会社員 |
| 4. 公務員 | 5. 団体・組合職員（農協、農林組合等） | |
| 6. 年金受給者 | 7. 学生 | 8. その他（ ） |

図 1.3 男女別回答者の職業（複数回答）



2. 家族と子ども

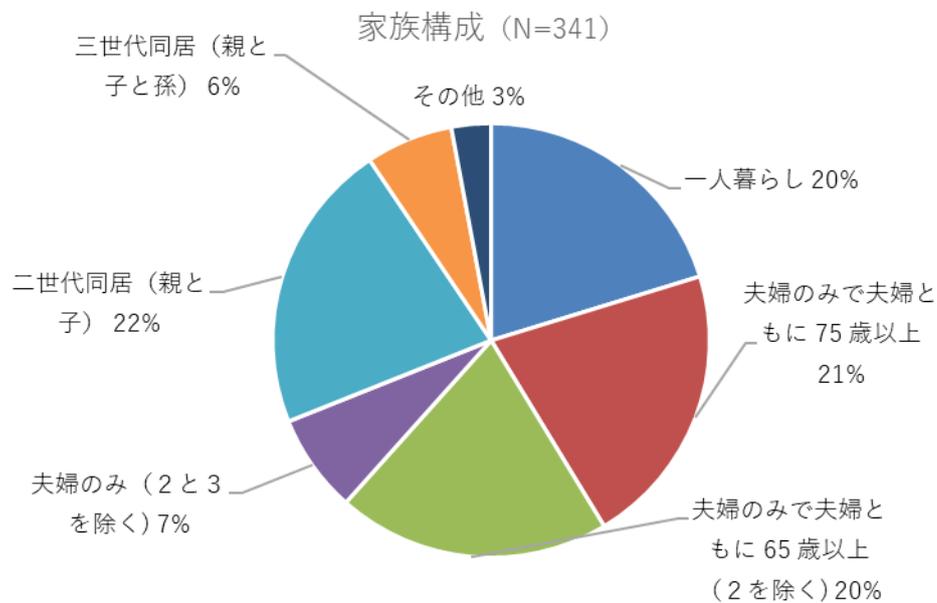
2.1 回答者の家族構成

回答者の家族構成は図 2.1 のとおりである。「一人暮らし」は 20% であり、65 歳以上に限ると 17% になる。「夫婦のみで夫婦ともに 75 歳以上」「夫婦のみで夫婦ともに 65 歳以上」を合わせると 41% になる。65 歳以上のみの世帯は少なくとも回答者のうち約 58% 以上ということになる。

問 5 あなたの家族構成はどれですか。あてはまるものに 1 つ ○ を付けてください。

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1. 一人暮らし | 2. 夫婦のみで夫婦ともに 75 歳以上 |
| 3. 夫婦のみで夫婦ともに 65 歳以上 (2 を除く) | |
| 4. 夫婦のみ (2 と 3 を除く) | 5. 二世世代同居 (親と子) |
| 6. 三世世代同居 (親と子と孫) | 7. その他 () |

図 2.1 回答者の家族構成



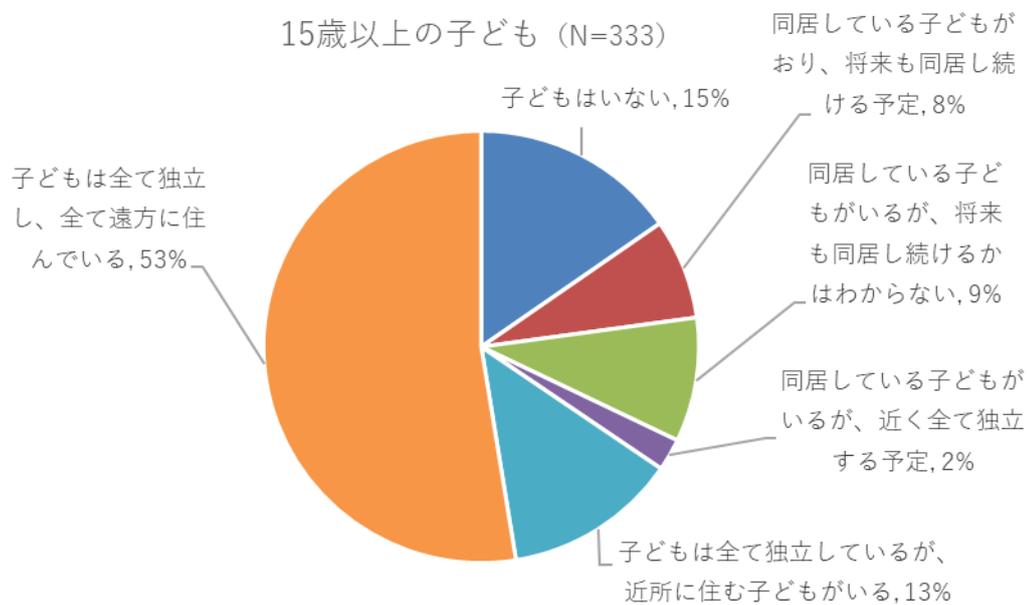
2.2 子どもの有無と居住地

15歳以上の子どもの有無と居住地を示したのが図2.2である。回答者の過半数が「子どもがすべて独立し、遠方に住んでいる」と答えている。

問6 あなたには、15歳以上のお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものに1つ○を付けてください。

0. 子どもはいない
1. 同居している子どもがおり、将来も同居し続ける予定
2. 同居している子どもがいるが、将来も同居し続けるかはわからない
3. 同居している子どもがいるが、近く全て独立する予定
4. 子どもは全て独立しているが、近所に住む子どもがいる
5. 子どもは全て独立し、全て遠方に住んでいる

図2.2 15歳以上の子どもの同居・近居・遠居



2.3 困ったときに帰ってきてくれる子どもの有無と居住地

一般に、自分や同居親族が生活に困ったときに子どもを頼ることが多い。そうした状況で帰ってきてくれる子どもがいるかどうかを尋ねた結果を65歳以上の回答者に限って示したものが図2.3である。回答者の89%は「帰ってきてくれる子どもがいる」と回答しており、そのほとんどは桜井市や橿原市をはじめ県内に居住している。

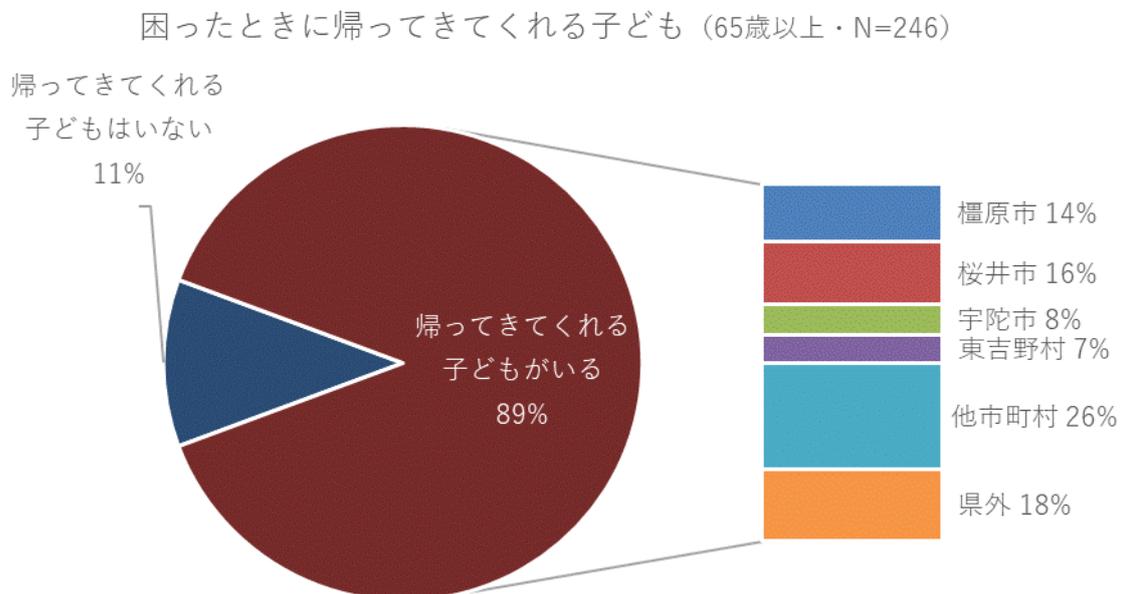
問7 あなたには、困ったときに帰ってきてくれるお子さんはいますか。もっとも帰ってきてくれるお子さんはどこに住んでいますか。あてはまるものに1つ○を付けてください。

1. 帰ってきてくれる子どもはいない
2. 帰ってきてくれる子どもがいる

→もっとも帰ってきてくれるお子さんはどちらにお住まいですか。

都道府県名 () 都・道・府・県 市町村名 () 市・町・村

図2.3 困ったときに帰ってきてくれる子どもの有無と居住地 (65歳以上の回答者)



3. 生活圏

住民の生活圏域、食品・日用品、医療機関、仕事を知るために次のような問いを設定した。これらに加えて、移住促進拠点との関わりを尋ねる質問も加えた。

問8 あなたが、それぞれの場所まで a. 出かける頻度、b. 通常利用する交通手段、c. 通常利用する交通手段によって片道にかかる時間はどれですか。番号①～④（または①～⑤）のうちあてはまるもの1つに○をつけてください。（ただし「3. 通勤先」では「a. 出かける頻度」を尋ねていない）

1. 食品・日用品の買い物先まで主にどこですか
2. 最寄りの病院まで主にどこの病院ですか
3. 主に仕事をするところ（通勤先）
4. 東吉野オフィスキャンプ
 - a. 出かける頻度
 - ①ほぼ毎日
 - ②週に数回
 - ③月に数回
 - ④ほとんど行かない
 - b. 通常利用する交通手段
 - ① 徒歩
 - ② 自転車
 - ③ 車・バイク
 - ④ バス・鉄道など公共交通
 - c. 片道にかかる時間
 - ①10分未満
 - ②10分～30分未満
 - ③30分～1時間未満
 - ④1時間～2時間未満
 - ⑤2時間以上

3.1 出かける頻度・利用する交通手段・所要時間

まず図3.1.1により「出かける頻度」をみると、食品・日用品店の場合、「週に数回」（41%）と「月に数回」（47%）が最も多く、病院では「週に数回」（57%）が最も多い。オフィスキャンプに「週に数回」あるいは「月に数回」出かける人は3%である。

図3.1.2は食品・日用品店、病院、仕事、オフィスキャンプに行く際に「利用する交通手段」である。これによると、食品・日用品店、病院、仕事のいずれも回答者の8割が車を利用している。このことは、高齢者にとっては将来的に車を利用できなくなる不安が高まるであろうことを示唆している。

図 3.1.3 は食品・日用品店、病院、仕事、オフィスキャンプに行く際、「片道にかかる時間」である。食品・日用品店や病院に 30 分以上かけて行く人が回答者の 6 割以上を占める。

図 3.1.1 出かける頻度

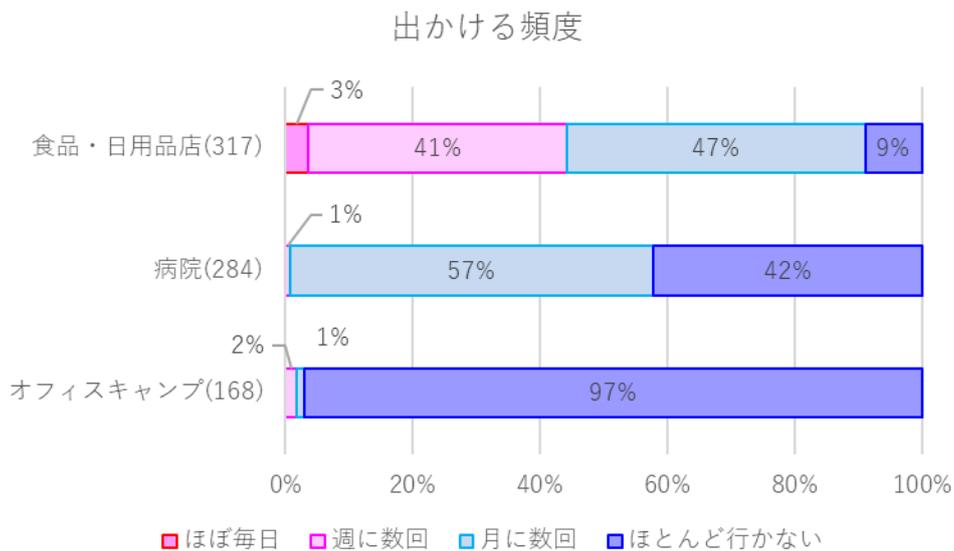


図 3.1.2 通常利用する交通手段

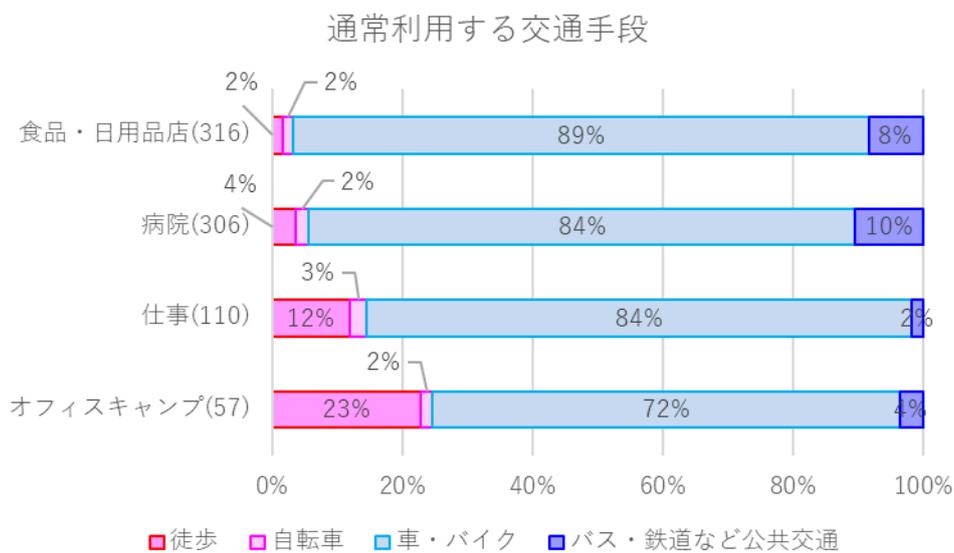
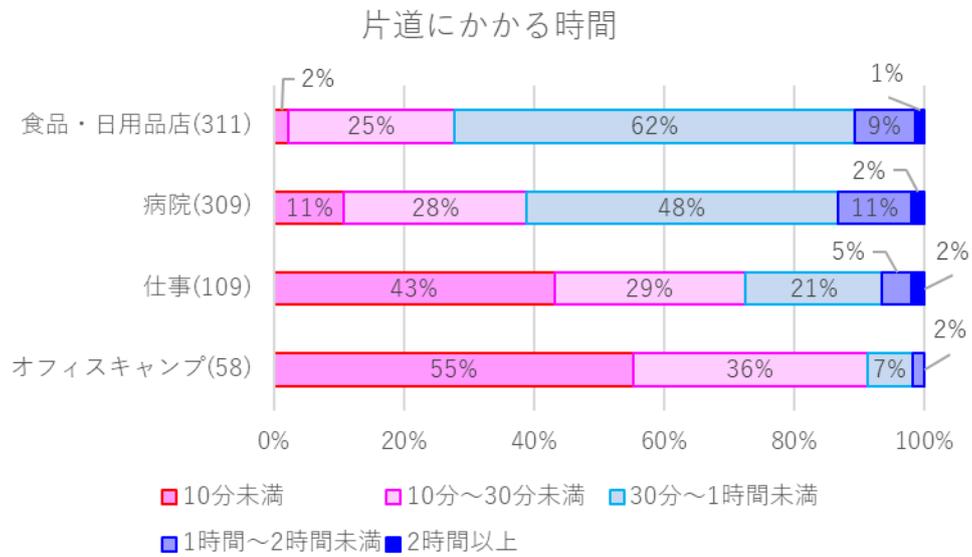


図 3.1.3 片道にかかる時間



3.2 食品・日用品の買い物先と最寄りの病院

表 3.2.1-2 は食品・日用品の買物先および最寄りの病院を示したものである。回答者の7割近くは宇陀市で買い物をしており、6割弱は宇陀市の病院に、2割強は桜井市の病院に通院している。

表 3.2.1 食品・日用品の買い物先

市町村名	度数	%	店舗名	度数
大和郡山市	1	0%	プライスカット大和郡山店	1
橿原市	10	4%	橿原市	8
			スーパーエバグリーン橿原膳夫店	1
			ワークマン橿原香久山店	1
桜井市	37	14%	桜井市	29
			イオン桜井店	2
			スーパーセンターオークワ桜井店	6
宇陀市	175	68%	宇陀市	134
			オークワサンクシティ榛原店	24
			スーパーもりかわ	1
			スーパーヨシムラ大宇陀店	13
			ローソン大宇陀店	2
			菟田野アグリマート	1
吉野町	1	0%	吉野町	1
大淀町	9	3%	大淀町	1
			ライフ大淀店	8
東吉野村	8	3%	東吉野村	4
			小さな道の駅ひよしのさとマルシ	4
その他	18	7%	個配・移動販売車	13
			帰り道	3
			他者依頼	2
計	259	100%		259

表 3.2.2 最寄りの病院

市町村名	度数	%	店舗名	度数
大和郡山市	1	0%	田北病院	1
天理市	7	3%	天理よろづ相談所病院	7
橿原市	15	6%	橿原市	5
			大和橿原病院	1
			奈良県立医科大学附属病院	8
			平成記念病院	1
桜井市	62	23%	桜井市	9
			済生会中和病院	12
			森本整形外科クリニック	1
			すずきこどもクリニック	2
			飯岡形成外科ひふ科	1
			米田医院	37
生駒市	1	0%	生駒市	1
宇陀市	153	57%	宇陀市	30
			たかしま耳鼻咽喉科	1
			宇陀市立病院	58
			吉井整形外科医院	1
			熊田内科クリニック	2
			水谷歯科	1
			辻村病院	60
吉野町	1	0%	吉野町	1
大淀町	10	4%	大淀町	1
			ごいちクリニック	1
			ますだクリニック北野	1
			南奈良総合医療センター	7
東吉野村	17	6%	東吉野村	5
			下間医院	11
			鷺家診療所	1
計	267	100%		267

4. 現在の生活と将来の生活

4.1 現在困っていることと将来不安なこと

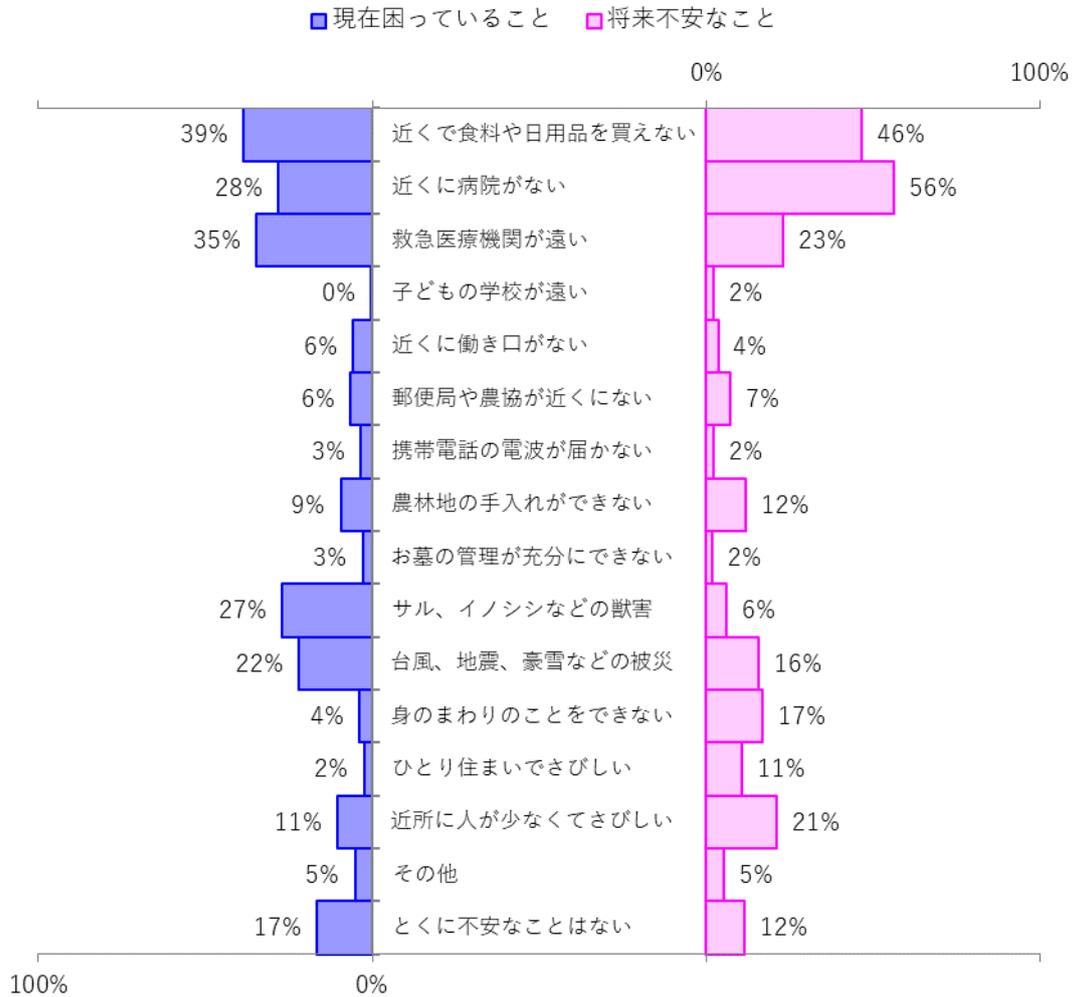
現在の生活で困っていることや不安なこと、10年後の生活を考えたときに不安なことについて、ほぼ同内容の項目を示し、それぞれ1位から3位まで順位をつけてもらった。順位のついた項目をまとめ、対照できるように示したのが図4.1である。

問9 生活する上で、お困りのこと・不安なことはありますか。一番困っていることに“1”、二番目に困っていることに“2”、三番目に困っていることに“3”を付けてください。もしとくに困っていることがなければ、一番下の「とくに困っていることはない」に○を付けてください。

問11 10年後の生活を考えた時、不安なことはありますか。ある場合は、一番不安に思うことに“1”、二番目に不安に思うことに“2”、三番目に不安に思うことに“3”を付けてください。もし不安なことがなければ、一番下の「とくに不安なことはない」に○を付けてください。

これをみると、「現在困っていること」と「将来不安なこと」を比較してみると、いずれにおいても、「近くで食料や日用品を買えない」「近くに病院がない」「救急医療機関が遠い」の3項目が最も多い。「将来不安なこと」では「近所に人が少なくてさびしい」ことも多くなっている。とくに「近くで食料や日用品を買えない」「近くに病院がない」の2項目は、「現在」よりも「将来」の方が多くなっており、住民の約半数にとっての不安となっている。「サル、イノシシなどの獣害」および「台風、地震、豪雪などの被災」は「現代」より「将来」で少なくなっているが、これは不安が解消されるだろうという見込みを示すものではない。この質問は3項目のみを選択する形式になっているので、他により不安な項目が増えていることを意味している。

図 4.1 食品・日用品の買い物先（複数回答）



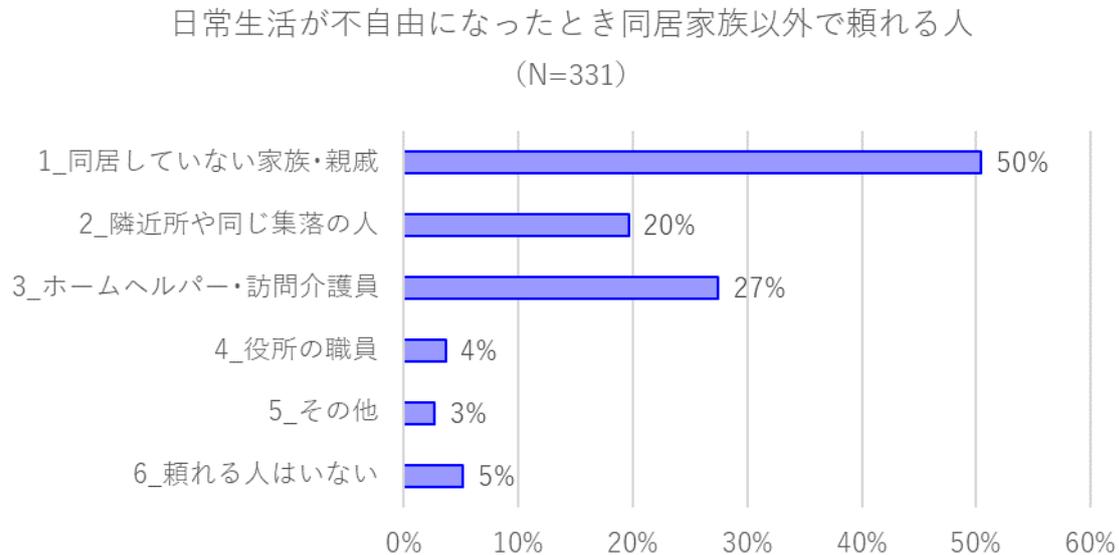
4.2 頼りになる人

将来、自身や家族の病気・高齢により日常生活が不自由になったとき、同居の家族以外に頼れる人がいるかを尋ねた結果が図 4.2 である。回答者の半数は「同居していない家族・親戚」を頼りにしている。

問 10 あなたや同居している家族が病気や高齢になるなどして、日常生活が不自由になったとき、同居の家族以外には、主に誰を頼りますか。あてはまるものに1つ○を付けてください。

1. 同居していない家族・親戚
2. 隣近所や同じ集落の人
3. ホームヘルパー・訪問介護員
4. 役所の職員
5. 頼れる人はいない
6. その他 ()

図 4.2 日常生活が不自由になったとき同居家族以外の誰に頼るか（複数回答）



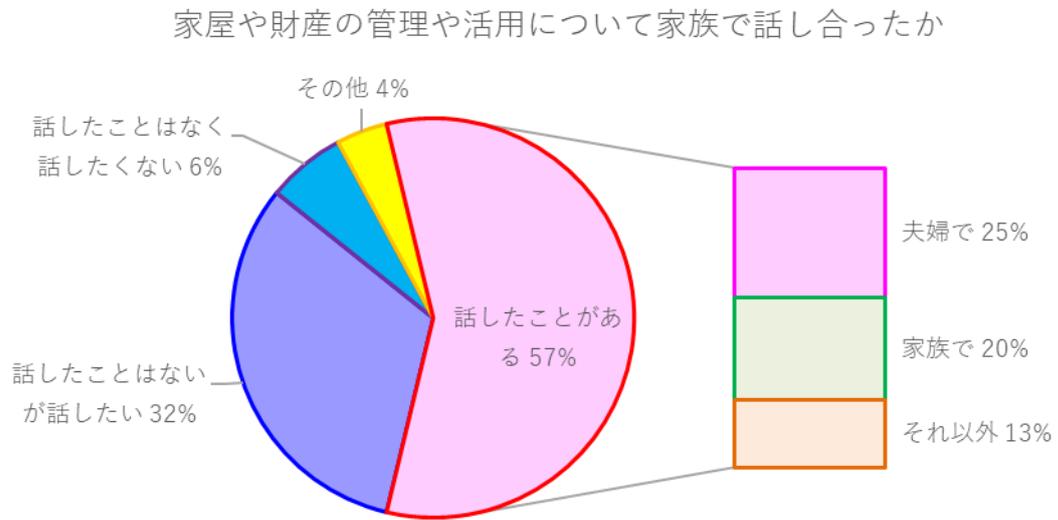
4.3 将来について相談したか

将来、家財産の管理や活用について家族で話した経験があるかどうかを尋ねた結果が図 4.3 である。回答者の半数は「話したことがある」となっている。しかし「話したことがある」を選択しながら「その他」に記載がある場合があり、「話したが決められない」「子供に関心がない」「どう考えてよいかわからない」「問題が多く解決できないので話せない」などと付記してあるケースもあり、話したからといって必ずしも何らかの見通しがついているわけではない。

問 12 お住いの家屋や庭、農地、山林などの今後の管理や活用について、ご家族で話した経験がありますか。あてはまるもの 1 つに○をつけてください。

1. 話したことがある → それは (夫婦で) ・ (家族で)
2. 話したことはないが、話したい
3. 話したことはなく、話したくない
4. その他 ()

図 4.3 家屋や財産の管理や活用について家族で話し合ったか



5. 将来の居住に関する意向

5.1 将来も住み続けたいか

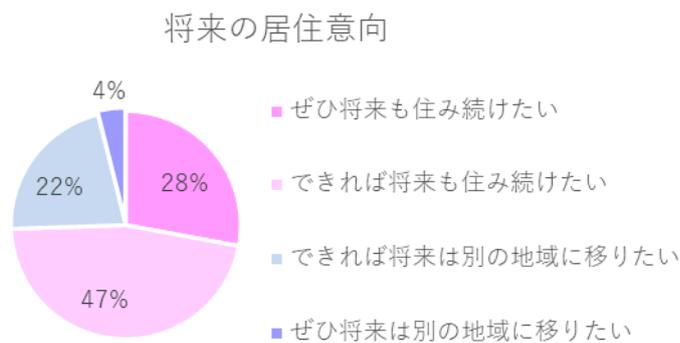
最後に、現在の居住地に将来も住み続けたいかどうかを尋ねた。そして「住み続けたい」場合にはその理由を、「別の地域に移りたい」場合はその理由に加えて移るに際して障害になる事項を尋ねた。

問 13 現在お住まいのところに将来も住み続けたいですか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

1. ぜひ将来も住み続けたい
2. できれば将来も住み続けたい
3. できれば将来は別の地域に移りたい
4. ぜひ将来は別の地域に移りたい

結果は図 5.1.1 のとおりである。約4分の3が現在の居住地に将来も住み続けたいと考えている。

図 5.1.1 将来も住み続けたいか



さらに、これを属性別に分析してみよう。将来の居留意向を年代別にみたものが図 5.1.2 である。「ぜひ将来は別の地域に移りたい」が最も多いのは「15～54歳」であるが、「ぜひ将来は別の地域に移りたい」「できれば将来は別の地域に移りたい」を合わせた割合が最も高いのは「60～64歳」である。また図 5.1.3 のように居住歴別男女別にみると、「ぜひ将来は別の地域に移りたい」「できれば将来は別の地域に移り

たい」を合わせた割合が最も高いのは「帰郷女性」と「移住男性」であることがわかる。

図 5.1.2 将来も住み続けたいか（年代別）

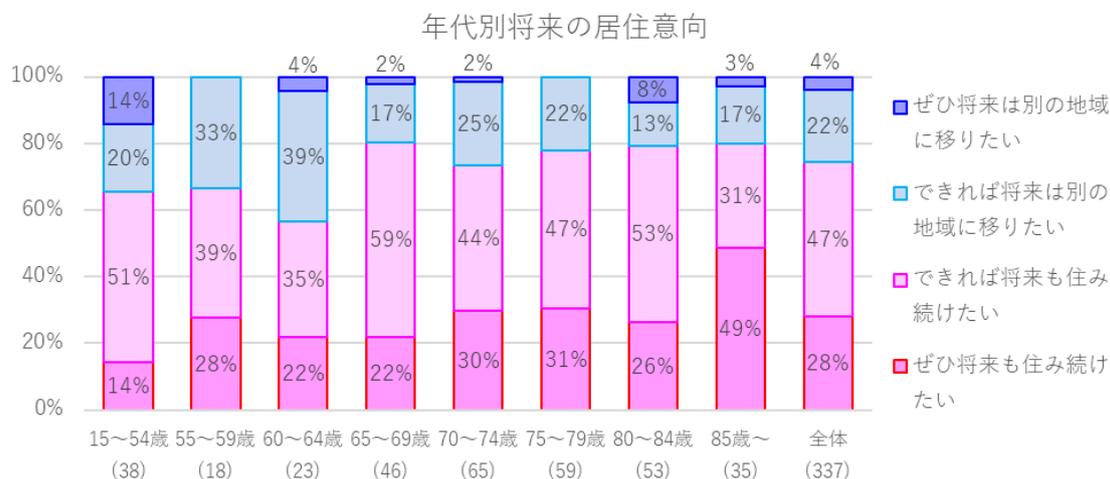
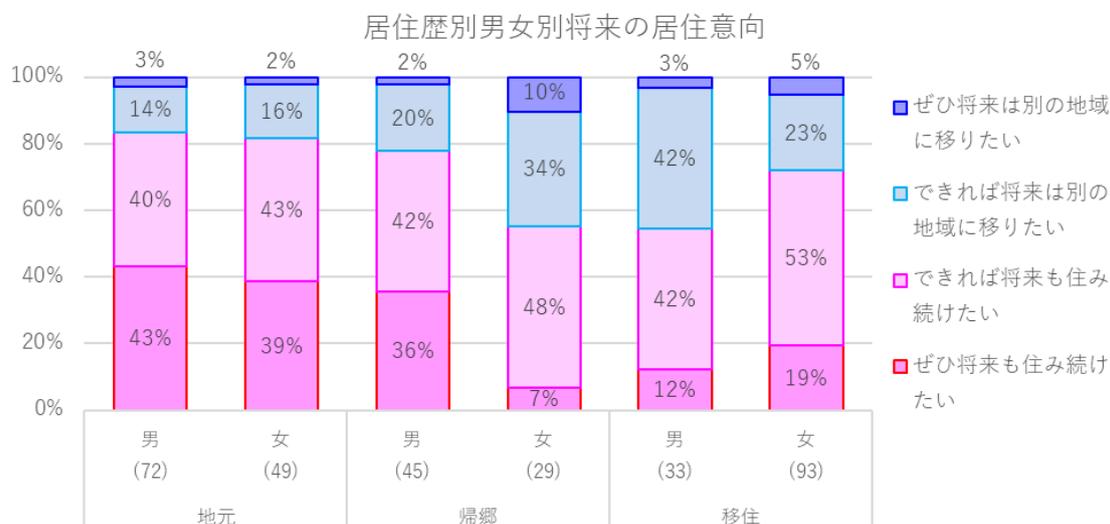


図 5.1.3 将来も住み続けたいか（居住歴別男女別）



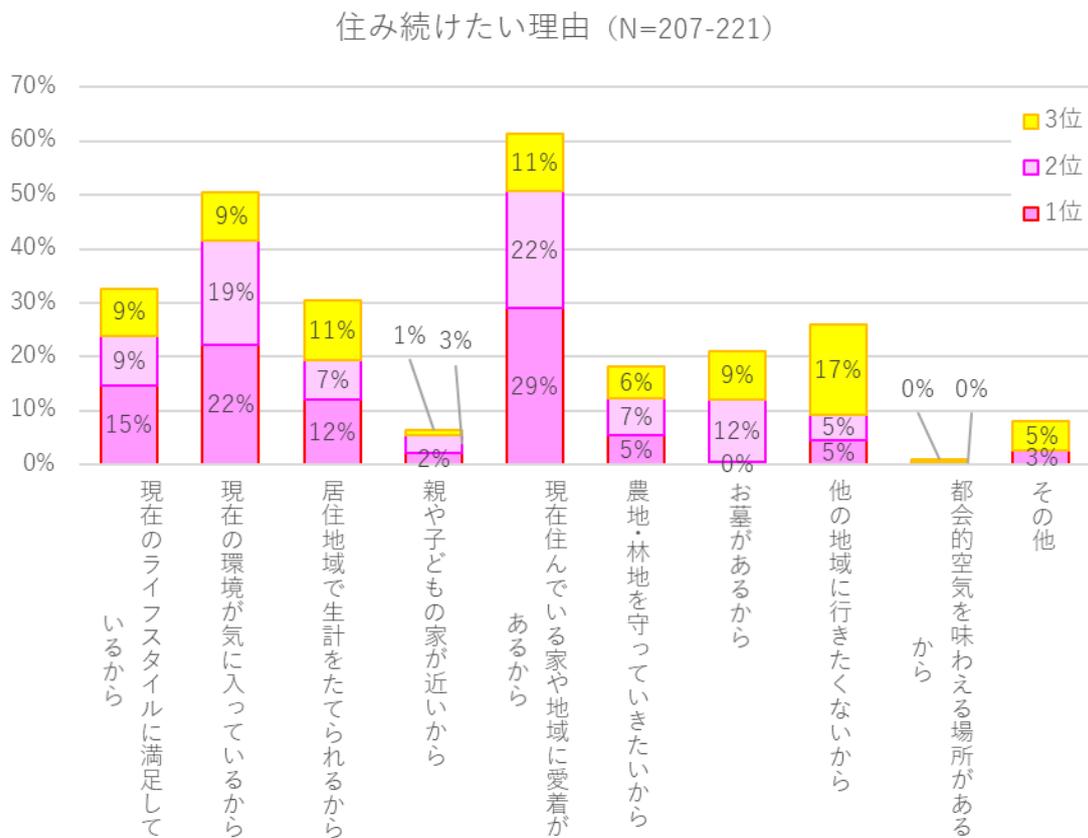
5.2 将来も住み続けたい理由

前問で「ぜひ将来も住み続けたい」「できれば将来も住み続けたい」と回答した回答者には将来も住み続けたい理由を3つ挙げて1位から3位まで順位をつけてもらった。

問 14 現在お住まいのところに住み続けたい理由は何ですか。重要度の高いものから、一番重要な理由に“1”、二番目に重要な理由に“2”、三番目に重要な理由に“3”を付けてください。

結果は図 5.2 に示している。「現在住んでいる家や地域に愛着があるから」が1位～3位を合わせて約62%と最も多く、「現在に環境が気に入っているから」「現在のライフスタイルに満足しているから」が続いている。いずれも現在の生活や環境への愛着を示している。

図 5.2 将来も住み続けたい理由（複数回答）



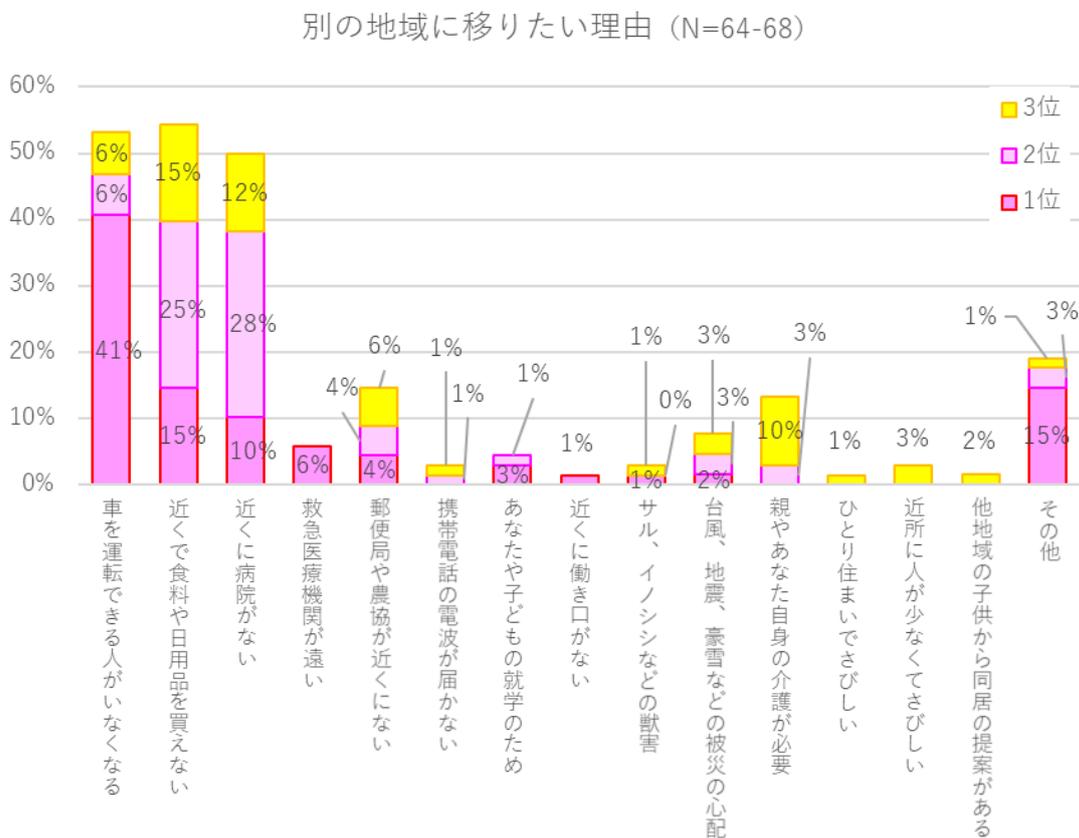
5.3 別の地域に移りたい理由

前問で「ぜひ将来は別の地域に移りたい」「できれば将来は別の地域に移りたい」と回答した回答者には別の地域へ移りたい理由を3つ挙げてもらい、1位から3位まで順位をつけてもらった。

問 15 別の地域へ移りたい理由は何ですか。重要度の高いものから、一番重要な理由に“1”、二番目に重要な理由に“2”、三番目に重要な理由に“3”を付けてください。

結果は図5.3のとおりである。1位で最も多かったのは「車を運転できる人がいなくなる」(41%)であり、1位～3位を合わせた割合で最も高かったのは「近くで食料や日用品を買えない」(55%)である。前述の「4.1 現在困っていることと将来不安なこと」でみたように、将来不安なこととしてもっとも多かったのは「近くに病院がない」「近くで食料や日用品を買えない」であった。ここでの回答の傾向はそうした将来の不安と結びついていると考えられる。

図 5.3 別の地域へ移りたい理由（複数回答）



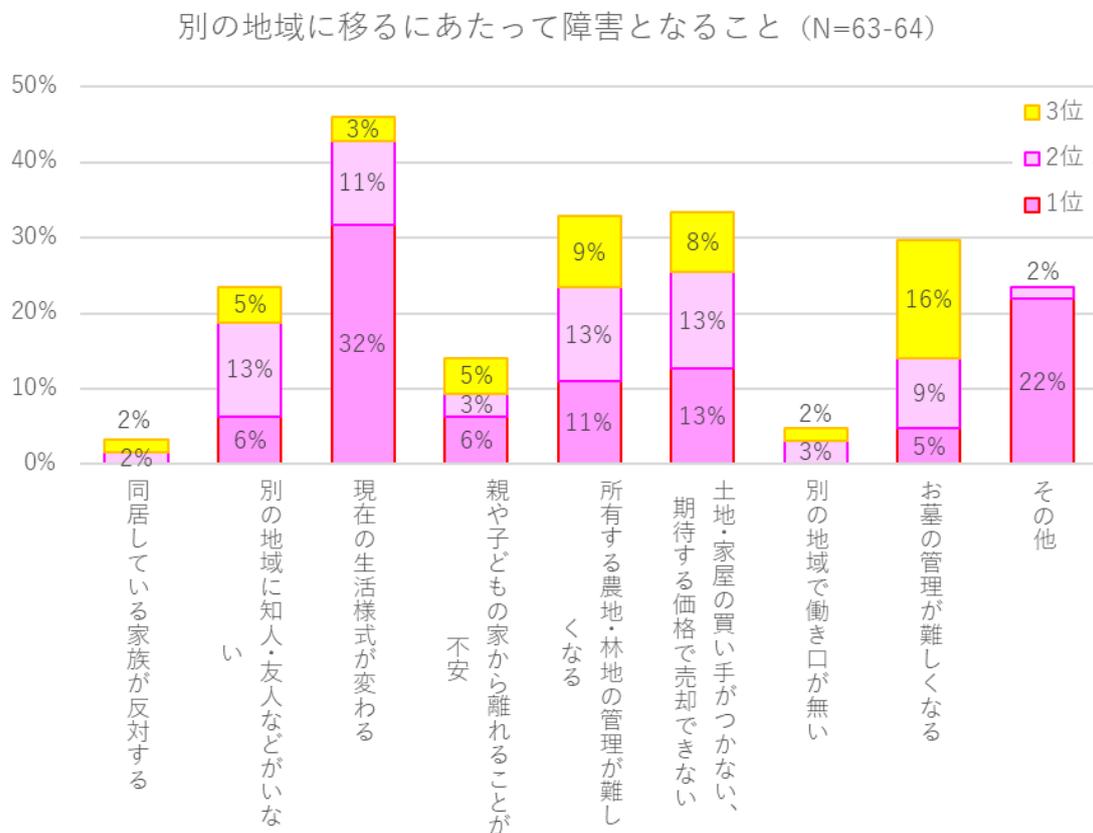
5.4 別の地域に移るにあたって障害となること

前問で「ぜひ将来は別の地域に移りたい」「できれば将来は別の地域に移りたい」と回答した回答者には、さらに別の地域へ移るにあたって障害となることを3つ挙げてもらい、1位から3位まで順位をつけてもらった。

問 15-2 別の地域に移るにあたり、障害に思うことは何ですか。一番重要な理由に“1”、二番目に重要な理由に“2”、三番目に重要な理由に“3”を付けてください。

結果は図 5.4 のとおりである。1位～3位を合わせた割合で最も高かったのは「現在の生活様式が変わる」（46%）であるが、これに「土地・家屋の買い手がつかない、期待する価格で売却できない」（34%）、「所有する農地・林地の管理が難しくなる」（33%）、「お墓の管理が難しくなる」（30%）が続いており、現在の土地家屋の処分や管理が障害と考えられていることがわかる。

図 5.4 別の地域へ移るにあたって障害となること（複数回答）



各世帯の15歳以上のみなさま

日常生活に関するアンケート調査 調査票

はじめに、あなたと世帯の暮らしについてうかがいます。

問1 あなたはどちらの集落にお住まいですか。

(大字でお答えください)

問2 あなたの年齢、性別をお答え下さい。

満

歳

(性別) 1. 男性 2. 女性

問3 あなたの居住歴について、あてはまるものに1つ○を付けてください。

1. 現住地の市町村で生まれてから、この市町村を離れて住んだことはない。
2. 現住地の市町村で生まれてから、この市町村を離れて住んだことがある
→いちばん最近に現在の市町村を離れて住んだ場所はどこですか。何歳頃、現在の市町村に戻られましたか。
市町村名()市・町・村 ()歳
3. 現住地の市町村外から移住してきた
→お生まれになったのはどちらですか。
都道府県名()市町村名()
→移住直前のお住まいはどこですか。
都道府県名()市町村名()

問4 あなたの職業はどれですか。複数の職業をもつ方は、あてはまるもの全てに○を付けてください。

1. 農林漁業者
2. 自営業者(農林漁業者以外)
3. 会社員
4. 公務員
5. 団体・組合職員(農協、農林組合等)
6. 年金受給者
7. 学生
8. その他()

問5 あなたの家族構成はどれですか。あてはまるものに1つ○を付けてください。

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1. 一人暮らし | 2. 夫婦のみで夫婦ともに 75 歳以上 |
| 3. 夫婦のみで夫婦ともに 65 歳以上(2. を除く) | |
| 4. 夫婦のみ(2. と3. を除く) | 5. 二世帯同居(親と子) |
| 6. 三世帯同居(親と子と孫) | 7. その他() |

問6 あなたには、15歳以上のお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものに1つ○を付けてください。

- | |
|-----------------------------------|
| 0. 子どもはいない |
| 1. 同居している子どもがおり、将来も同居し続ける予定 |
| 2. 同居している子どもがいるが、将来も同居し続けるかはわからない |
| 3. 同居している子どもがいるが、近く全て独立する予定 |
| 4. 子どもは全て独立しているが、近所に住む子どもがいる |
| 5. 子どもは全て独立し、全て遠方に住んでいる |

問7 あなたには、困ったときに帰ってきてくれるお子さんはいますか。もっとも帰ってきてくれるお子さんはどこに住んでいますか。あてはまるものに1つ○を付けてください。

- | |
|--------------------------------|
| 1. 帰ってきてくれる子どもはいない |
| 2. 帰ってきてくれる子どもがいる |
| →もっとも帰ってきてくれるお子さんはどちらにお住まいですか。 |
| 都道府県名 ()都・道・府・県 |
| 市町村名 ()市・町・村 |

あなたの外出などについてうかがいます。

問8 あなたが、それぞれの場所まで a.出かける頻度、b.通常利用する交通手段、c.通常利用する交通手段によって片道にかかる時間はどれですか。番号①～④(または①～⑤)のうちあてはまるもの1つに○をつけてください。

	a. 出かける頻度	b.通常利用する交通手段	c.片道にかかる時間
1. 食品・日用品の 買い物先まで 主にどこですか (具体的に) []	①ほぼ毎日 ②週に数回 ③月に数回 ④ほとんど行かない	① 徒 歩 ② 自転車 ③ 車・バイク ④ バス・鉄道など 公共交通	① 10分未満 ② 10分～30分未満 ③ 30分～1時間未満 ④ 1時間～2時間未満 ⑤ 2時間以上
2. 最寄りの病院まで 主にどこの病院ですか (具体的に) []	①ほぼ毎日 ②週に数回 ③月に数回 ④ほとんど行かない	① 徒 歩 ② 自転車 ③ 車・バイク ④ バス・鉄道など 公共交通	① 10分未満 ② 10分～30分未満 ③ 30分～1時間未満 ④ 1時間～2時間未満 ⑤ 2時間以上
3. 主に仕事をする ところ(通勤先)	/	① 徒 歩 ② 自転車 ③ 車・バイク ④ バス・鉄道など 公共交通	① 10分未満 ② 10分～30分未満 ③ 30分～1時間未満 ④ 1時間～2時間未満 ⑤ 2時間以上
4. 東吉野オフィスキ ャンプ	①ほぼ毎日 ②週に数回 ③月に数回 ④ほとんど行かない	① 徒 歩 ② 自転車 ③ 車・バイク ④ バス・鉄道など 公共交通	① 10分未満 ② 10分～30分未満 ③ 30分～1時間未満 ④ 1時間～2時間未満 ⑤ 2時間以上

あなたや同居している家族が生活のうえでお困りのことなどについてうかがいます。

問9 生活する上で、お困りのこと・不安なことはありますか。一番困っていることに“1”、二番目に困っていることに“2”、三番目に困っていることに“3”を付けてください。もしとくに困っていることがなければ、一番下の「とくに困っていることはない」に○を付けてください。

	近くで食料や日用品を買えないこと
	近くに病院がないこと
	救急医療機関が遠く、搬送に時間がかかること
	子どもの学校が遠いこと
	近くに働き口がないこと
	郵便局や農協が近くになく、預貯金の出し入れが不便なこと
	携帯電話の通話・通信のための電波が届かないこと(電波状態が悪いこと)
	農林地の手入れが充分にできないこと
	お墓の管理が充分にできないこと
	サル、イノシシなどの獣があらわれること
	台風、地震、豪雪など災害で被災のおそれがあること
	ご自身や同居している家族だけでは、身のまわりのことを充分にできないこと
	ひとり住まいでさびしいこと
	近所に住んでいる人が少なくてさびしいこと
	その他()
	とくに困っていることはない

問10 あなたや同居している家族が病気や高齢になるなどして、日常生活が不自由になったとき、同居の家族以外には、主に誰を頼りますか。あてはまるものに1つ○を付けてください。

1. 同居していない家族・親戚	2. 隣近所や同じ集落の人
3. ホームヘルパー・訪問介護員	4. 役所の職員
5. 頼れる人はいない	6. その他()

問11 10年後の生活を考えた時、不安なことはありますか。ある場合は、一番不安に思うことに“1”、二番目に不安に思うことに“2”、三番目に不安に思うことに“3”を付けてください。もし不安なことがなければ、一番下の「とくに不安なことはない」に○を付けてください。

	食料や日用品を買いに行くのが大変になりそうなこと
	病院に通うのが大変になりそうなこと
	救急医療機関が遠く、搬送に時間がかかりそうなこと
	子どもが学校に通うのが大変になりそうなこと
	近くに働き口がなくなりそうなこと
	郵便局や農協が近くなり、預貯金の出し入れが不便になりそうなこと
	携帯電話の通話・通信のための電波が届かないであろうこと(電波状態が悪いであろうこと)
	農林地の手入れが充分にできなくなりそうなこと
	お墓の管理が充分にできなくなりそうなこと
	サル、イノシシなどの獣があらわれそうなこと
	台風、地震、豪雪など災害で被災のおそれがあること
	ご自身や同居している家族だけでは、身のまわりのことを充分にできなくなりそうなこと
	ひとり住まいになりそうなこと
	近所に住んでいる人が少なくなり、さびしくなりそうなこと
	その他()
	とくに不安なことはない

問12 お住いの家屋や庭、農地、山林などの今後の管理や活用について、ご家族で話した経験がありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

<p>1. 話したことがある → それは (夫婦で) ・ (家族で)</p> <p>2. 話したことはないが、話したい</p> <p>3. 話したことはなく、話したくない</p> <p>4. その他()</p>
--

あなたの今後の居住の意向についてうかがいます。

問13 現在お住まいのところに将来も住み続けたいですか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

1. ぜひ将来も住み続けたい
2. できれば将来も住み続けたい
3. できれば将来は別の地域に移りたい
4. ぜひ将来は別の地域に移りたい

問14へ

問15へ

1または2とお答えの方

問14 現在お住まいのところに住み続けたい理由は何ですか。重要度の高いものから、一番重要な理由に“1”、二番目に重要な理由に“2”、三番目に重要な理由に“3”を付けてください。

	現在のライフスタイルに満足しているから
	現在の自然環境や生活環境が気に入っているから
	現在住んでいる地域で生計をたてられるから
	親や子どもの家が近いから(親や子どもと同居しているから)
	現在住んでいる家や地域に愛着があるから
	農地・林地を守っていききたいから
	お墓があるから
	他の地域に行きたくないから
	都会的空気を味わえる場所(カフェ・コワーキングスペースなど)が村内にもあるから
	その他()

3または4とお答えの方

問15 別の地域へ移りたい理由は何ですか。重要度の高いものから、一番重要な理由に“1”、二番目に重要な理由に“2”、三番目に重要な理由に“3”を付けてください。

	世帯の中で車を運転できる人がいなくなりそうだから
	近くで食料や日用品を買えなくて不便だから
	近くに病院がなくて不便だから
	救急医療機関が遠く、搬送に時間がかかり不安だから
	郵便局や農協が近くになくて、預貯金の出し入れが不便だから
	携帯電話の通話・通信のための電波が届かないから(電波状態が悪いから)

(次ページに続きます。)

	あなたや子どもの就学のため
	近くに働き口がないから
	サル、イノシシなどの獣があらわれるから
	台風、地震、豪雪など災害で被災の恐れがあるから
	親やあなた自身の介護が必要になりそうだから
	ひとり住まいでさびしいから
	近所に住んでいる人が少なくてさびしいから
	他の地域に住む子供から同居の提案があるから
	その他()

問15-2 別の地域に移るにあたり、障害に思うことは何ですか。一番重要な理由に“1”、二番目に重要な理由に“2”、三番目に重要な理由に“3”を付けてください。

	同居している家族が反対するから		別の地域に知人・友人などがいないから
	現在の生活様式が変わるから		親や子どもの家から離れることが不安だから
	所有する農地・林地の管理が難しくなるから		土地・家屋の買い手が見つからない、期待する価格で売却できないから
	別の地域で働き口が無いから		お墓の管理が難しくなるから
	その他()		

調査へのご意見・ご感想、ご家族や地域への思いなどございましたら、ぜひお聞かせください。また移住者の方は、移住のきっかけや地域の印象などもお聞かせください。